



今井町・吉野千本桜

■4月10日 「今井町 散策」

近鉄奈良駅から西大寺駅を經由し、八木西口で降り飛鳥川にかかる赤い橋を渡ると今井町の町並みが見えてきます。

今井町は、昔大坂や堺などと交流がさかんになり、江戸時代には「大和の金は今井に七分」と言われるほど南大和最大の商業都市として栄えていました。

現在は重要伝統的建造物群保存地区として、今西家をはじめ8軒の民家が重要文化財に指定されています。この歴史ある町家を代々受け継いでいく為に町全体が一体となって守り続けているのが感じられます。

またこの地域は内部に見通しのきく道路がなく、ほとんどが一度屈折させているのが特徴です。

これは古い時代に敵の攻撃から身を守るための工夫でしたが、江戸中期には財産を守る為と時間がたつにつれて理由は変わってきました。実際歩いてみると、地図を見ても今どこにいるのかが分からず、目的地までもなかなかたどり着けない状態でした。お店が少なくなってきた今でも昔と変わらない町並みがしっかりと残されています。

しかし、この町のもう1つの特徴でもある、道幅が狭いので車がほとんど通らないということから、とても静かでのんびりとし、道に迷っていることも忘れてしまいそうでした。

この素晴らしい町家を伝えていけるように、また昔から住んでいる人ももちろん、若い人達にもここの良さをわかってもらえるようにいろいろな工夫がされていました。

町の中にある「今井まちづくりセンター」では外観は町家そのものですが、内装が懐かしさの中にも最新の設備をされたモデルハウスとして若い人たちにも紹介されています。

そして、この町は誰とでもすぐに話ができるのがいいと思いました。何軒かお邪魔した施設でもみんな親切に町の事を教えてくれたし、「どちらから来られたんですか？」と声をかけてくれました。

町の温かさ、人の温かさに触れる事のできる場所だと思いました。

■4月11日 「吉野千本桜」

吉野山の千本桜は1300年の歴史を持つ日本一の桜の名所です。この時期になると全国各地から、たくさんの観光客が吉野山へ集まります。今までにもいろいろと話は聞いていたし、人の多さも多少わかっていたつもりでしたが、到着すると目の前には思っていた以上にたくさんの人でした。まず見えてくるのは中千本へのバスと、下千本へのロープウェイを待つ人の列です。

今回はまずバスに乗って中千本まで上る事にしました。満員になったバスで山道を上ると、そこにはすでにたくさんの観光バスや自家用車が止まっていて降りるのも大変でした。そこからハイキングコースを歩いて下ります。

この日はお天気も良く異常なくらいの暑さでしたが、木と木の間を通ってくる風によって桜の花びらが舞う姿はとても綺麗でした。最近ではなかなか山道を歩く事もなくなっていますが、満開の桜並木はとても気持ち良くて足取りも軽くなります。

吉野山にはたくさんの種類の桜が咲いていますが、ほとんどが「シロヤマザクラ」という種類だそうです。

1本だけで見るとソメイヨシノの方が豪華には見えますが、山全体がピンクに染まったシロヤマザクラはソメイヨシノに負けない素晴らしいものでした。

道中にある、何か所かの絶景スポットではみんなカメラを構えて吉野山での思い出と、この時期にしかない満開の桜をしっかりと写真におさめていました。そして桜の下でお花見弁当が見えだす時間になってきたので、私達も昼食です。

今回は「季節料理 初音」さんにお邪魔しました。ここは吉野名物「葛」や地元の食材を使った料理が有名で、私達は名物の葛うどんをいただきました。うどんの上には桜の花びらがのっけていて見ているだけで、吉野へ来た事を改めて実感しました。うどんはツルっとしたのどごしと、もちっとした食感でいくらでも食べられそうでした。

お腹がいっぱいになったので、再出発し七曲坂という遊歩道を歩きます。ここは七曲坂と名前がつくだけあってくねくねとした坂道です。坂道はキツイですが木陰は涼しくて自然を肌で感じました。やっと到着した駐車場にはこれはまたたくさんの観光バスが隙間なく止まっていました。

実際に山全体の桜を見て、自然いっぱいの山道を歩いて、吉野名物のおいしい物を食べてみると、県外各地からここを選ぶ理由がわかるし、たくさんの人達が満足するのがわかりました。奈良は同じ場所でも季節によって違う良さがあり、回数を重ねるごとにもっともっといろいろな発見があるところだと思います。気候も良くなってきたこの時期にぜひ足を運んではいかがでしょうか・・・

